

短 報

富山県初記録のイチモンジタナゴ*

荒木 克昌・日下 智敏

アースコンサル(株)本社環境研究所

〒939-0351 富山県射水郡小杉町戸破8-17

南部 久男

富山市科学文化センター

〒939-0804 富山県富山市西中野町1-8-31

The First Record of *Acheilognathus cyanostigma* at the Sho River, in Toyama Prefecture

Yoshimasa ARAKI, Tomotoshi KUSAKA and Hisao NAMBU

富山県に生息するタナゴ類には、在来種のヤリタナゴ、アカヒレタビラ、イタセンパラ、移入種のタイリクバラタナゴの計4種が知られているが(田中, 1978; 富山市科学文化センター, 1989), 今回、庄川河川敷にある湛水池及びその周辺で、富山県未記録であるイチモンジタナゴ(*Acheilognathus cyanostigma* Jordan et Fowler)が確認されたので報告する。

調査地域

イチモンジタナゴが確認された場所は、高岡市三女子の庄川左岸(図1)の河川敷内にある湛水池及び湛

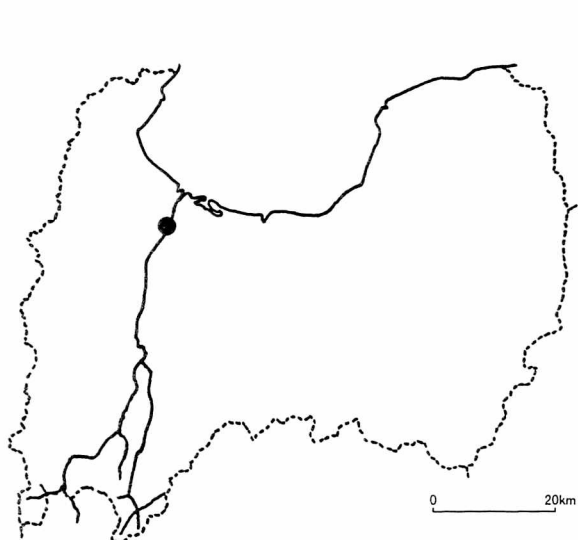


図1 イチモンジタナゴ確認地点

水池から庄川本川に流れ込む小河川である。湛水池は2つ存在し、大きさは、堤防よりの湛水池が約100m×30m, 水深約1.5m, 本川よりの湛水池が約60m×20m, 水深約0.7mであった。また、湛水池から本川合流地点までの小河川は上流部では幅約0.8m, 水深約0.3m, 下流部の合流地点ではワンドになっており、幅約15m, 水深約1.2mであった。底質は、何れの湛水池、小河川も小礫の上に約20cmの砂泥が堆積している状態であった。湛水池の周辺には、ヤナギ、ハンノキ、クルミ等の高木林やツルヨシ、ガマ等の抽水植物が繁茂しており、この湛水池は外部から隠れた状態になっている。

調査は1997年4月15日, 4月19日, 6月8日, 11月3日にタモ網, 目視により行った。

生息状況

各調査日に確認したイチモンジタナゴは、体長11mm~50mmの個体であった(図2)。秋季には、体長12mm程度の幼魚が千単位の群れを形成しているのが、湛水池のあちこちで見られた。6月8日の調査日には婚姻色の鮮やかにでたオスや輸卵管がでているメスの個体が捕獲されたことより、本種はこの場所で繁殖を行っていることが推測される。

本種が生息している場所では、24種もの魚類が生息しており(表1), 魚類相は豊かであるといえる。この場所で、優占している種は2つの湛水池ではメダカ、イチモンジタナゴであり、小河川及びワンドではオイカワ、メダカであった。同じタナゴ亜科であるアカヒレタビラが同所的に生息しているが、イチモンジタナゴの方が圧倒的に優占している。2つの湛水池では、イチモンジタナゴの生息環境は良好であり、生息数も非常に多いことが確認された。この場所ではブラック

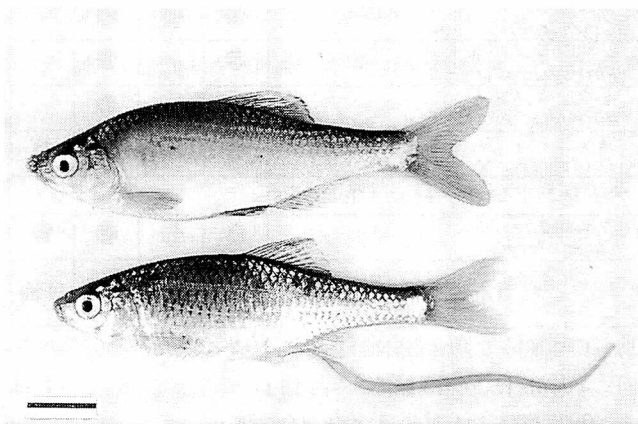


図2 庄川産のイチモンジタナゴ(上オス, 下メス)

* 富山市科学文化センター研究業績第202号

表1 調査地点で確認された魚類

種 名	調査日			
	4/15	4/19	6/8	11/3
コイ科 Cyprinidae				
コイ <i>Cyprinus carpio</i>		●	●	●
ガンゴロウブナ <i>Carassius cuvieri</i>		●	●	
ギンブナ <i>Carassius auratus langsdorffii</i>	●	●	●	●
アカヒレタビラ 1) <i>Acheilognathus tabira subsp. 1</i>			●	●
イチモンジタナゴ 2) <i>Acheilognathus cyanostigma</i>	●	●	●	●
オイカワ <i>Zacco platypus</i>	●	●	●	●
アブラハヤ <i>Phoxinus phoxinus</i>	●			
ウグイ <i>Tribolodon hakonensis</i>	●	●	●	●
モツゴ <i>Pseudorasbora parva</i>	●	●	●	●
タモロコ <i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	●			
カマツカ <i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>			●	
ドジョウ科 Cobitidae				
ドジョウ <i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	●	●	●	●
シマドジョウ <i>Cobitis biwae</i>	●	●	●	●
アユ科 Plecoglossidae				
アユ <i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>			●	
メダカ科 Adrianichthyidae				
メダカ <i>Oryzias latipes</i>	●	●	●	●
トゲウオ科 Gasterosteidae				
イトヨ <i>Gasterosteus aculeatus</i>			●	
トミヨ <i>Pungitius sinensis</i>			●	●
サンフィッシュ科 Centrarchidae				
ブラックバス <i>Micropterus salmoides</i>	●	●	●	
ハゼ科 Gobiidae				
ウキゴリ <i>Chaenogobius urotaenia</i>	●	●	●	●
ジュズカケハゼ <i>Chaenogobius laevis</i>	●	●	●	
シマヨシノボリ <i>Rhinogobius sp. CB</i>	●		●	
トウヨシノボリ <i>Rhinogobius sp. OR</i>			●	
ヌマチチブ <i>Tridentiger brevispinis</i>	●	●	●	●
タイワンドジョウ科 Channidae				
カムルチー <i>Channa argus</i>	●	●	●	●
8 科 24 種	16 種	15 種	22 種	14 種

1) 6月8日 成魚3個体 11月3日 成魚10個体
2) 4月15日 成魚3個体 4月19日 成魚29個体 6月8日 成魚35個体 11月3日 稚魚300個体

バス、カムルチーといった魚食性の魚類の繁殖が確認されているが、テトラポットやツルヨシ等の避難場所があることや生息環境が安定していることから、現在のところ生息状況は安定しており、良好であるといえる。魚類以外では、ドブガイ、マシジミ、ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニが確認された。ドブガイ、ヌマエビの生息密度は非常に大きく、ドブガイは殻長15cmを超える大型の個体が多数生息していた。ドブガイ以外の大型の二枚貝が確認されていないことから、この場所のイチモンジタナゴはドブガイを産卵床として利用していると考えられる。

イチモンジタナゴは、琵琶湖淀川水系、和歌山県紀ノ川水系、福井県三方湖、濃尾平野に分布するタナゴである（長田，1989）。最近では、石川県（佐野，1996）、広島県、四国各地、熊本県等（長田，1989）、以前には生息していなかった場所で確認されていることから、琵琶湖からのアユの放流に伴い本種は分布を拡張していると推測されている（長田，1989）。

今回の確認地域において本種が、いつ頃から生息しているかについては不明であるが、庄川でも琵琶湖産のアユの放流が大量に毎年行われていることから、本種もそれに混じり、移入してきた可能性が大きいと推測される。

謝 辞

大阪教育大学教育学部長田芳和教授にはイチモンジタナゴの同定をしていただき、富山大学教育学部長田中晋教授並びに魚津水族館稲村修氏にはご助言と指導をいただいた。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

文 献

佐野修，1996. 石川県の淡水魚類の概要. 石川県の淡水魚類，石川県：5-12
田中晋，1978. 富山県の淡水魚類. 富山県の陸水生物，富山県：253-306
富山市科学文化センター，1989. 田中晋淡水魚コレクション. 富山市科学文化センター収蔵資料目録，(3)
長田芳和，1989. イチモンジタナゴ. 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚，山と溪谷社：372